(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2017-6544
(P2017-6544A)
(43)公開日　平成29年1月12日(2017.1.12)

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
A47B 37/00	(2006.01)	A47B	37/00		3B053
A47B 13/00	(2006.01)	A47B	13/00	B	3B060
A47B 87/00	(2006.01)	A47B	87/00		

審査請求 未請求　請求項の数 6　OL　（全 11 頁）

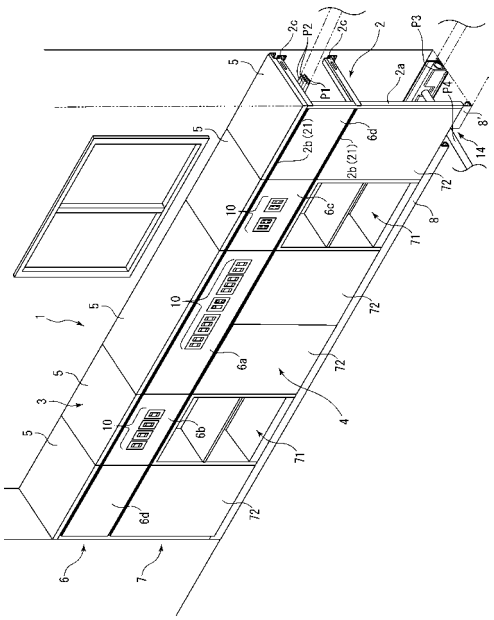
(21)出願番号　特願2015-127760 (P2015-127760)
(22)出願日　平成27年6月25日 (2015.6.25)

(71)出願人　000000561
株式会社岡村製作所
神奈川県横浜市西区北幸２丁目７番１８号
(74)代理人　100098729
弁理士　重信　和男
(74)代理人　100163212
弁理士　溝渕　良一
(74)代理人　100148161
弁理士　秋庭　英樹
(74)代理人　100156535
弁理士　堅田　多恵子
(74)代理人　100195833
弁理士　林　道広
(74)代理人　100116757
弁理士　清水　英雄

最終頁に続く

(54)【発明の名称】什器

(57)【要約】
【課題】所望の位置にアウトレットを配設する作業が簡便な什器を提供すること。
【解決手段】床面から立設した枠体２の内部空間に配線Ｐ１，Ｐ１，…や配管Ｐ２，Ｐ２，…が配置されており、枠体２は、横方向に延びる横杆部材２ｂ，２ｂを備え、横杆部材２ｂ，２ｂによって枠体２の外面領域が上下に分割されており、枠体２の外面領域における上段には、配線Ｐ１，Ｐ１，…や配管Ｐ２，Ｐ２，…に接続可能なアウトレット１０，１０，…を少なくとも１つ有する機能パネル６が配設されており、機能パネル６は、横方向に分割され、同一の上下幅を有する複数の分割体６ａ，６ｂ，６ｃ，６ｄ，６ｄを備えており、各分割体６ａ，６ｂ，６ｃ，６ｄ，６ｄは、並び替えが可能となっている。
【選択図】図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
床面から立設した枠体の内部空間に配線や配管が配置されており、
前記枠体は、横方向に延びる横杆部材を備え、前記横杆部材によって該枠体の外面領域が上下に分割されており、前記枠体の外面領域における上段には、前記配線や配管に接続可能なアウトレットを少なくとも１つ有する機能パネルが、配設されており、
前記機能パネルは、横方向に分割され、同一の上下幅を有する複数の分割体を備えており、各前記分割体は、並び替えが可能となっていることを特徴とする什器。
【請求項２】
前記枠体は、前記横杆部材を上下に一対備えており、一対の前記横杆部材間に複数の前記分割体が取付けられていることを特徴とする請求項１に記載の什器。
【請求項３】
複数の前記分割体は、一対の前記横杆部材にそれぞれ係止して着脱可能に取付けられていることを特徴とする請求項２に記載の什器。
【請求項４】
前記機能パネルは、複数の前記分割体のうち２つ以上が同一の横幅を有していることを特徴とする請求項１ないし３のいずれかに記載の什器。
【請求項５】
前記枠体の内部空間の上方には、前記配線や前記配管におけるガス管が配設され、前記枠体の内部空間の下方には、前記配管における液管が配設されていることを特徴とする請求項１ないし４のいずれかに記載の什器。
【請求項６】
床面には、前記枠体の長手方向に沿って延びるベース部材が複数敷設されており、少なくとも隣接する２つの前記ベース部材は、該長手方向に所定間隔して配設されており、隣接する２つの前記ベース部材には、前記枠体の外面領域における下段に配設される構造部材が渡るように載置されていることを特徴とする請求項１ないし５のいずれかに記載の什器。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、内部に配管や配線を配置でき、且つ該配管や配線に外部から接続できる什器に関する。
【背景技術】
【０００２】
実験室や工場等には、電気器具を利用して天板上で各種作業を行うことができる多機能の什器が配設されている。このような什器として、例えば、特許文献１のようなものがある。この什器は、箱型を成し、その内部に配線を通すことができるようになっているとともに、該什器の側面を構成する側板に配線と接続されたコンセント口（アウトレット）が設けられており、このコンセント口から電気が供給された電気器具を用いて、前記什器の天板上で各種作業を行うことができるようになっている。
【０００３】
近年では、このような什器が、病院やクリニック等における病室や治療ゾーンにも利用されており、電源用の配線や、治療に用いる数種類の医療ガス用の配管等を什器の内部に通すとともに、各種アウトレットを側板に設けるようにし、これにより、患者がアウトレットを介して配管や配線に接続して治療を受けられるようなっている。什器を病院やクリニック等における病室や治療ゾーンで利用するにあたっては、病室や治療ゾーンの空間のレイアウトや、治療内容等によって、什器に対して必要とされるアウトレットの位置や数量が異なるため、設置時には所望のレイアウトに合わせて什器の側板にアウトレットを配設する必要が度々あった。
【先行技術文献】

【特許文献】
【０００４】
【特許文献１】特開２０１２－１０１３００号公報（第４頁、第１図）
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
しかしながら、特許文献１のような什器の側板に対し、所望のレイアウトに合わせてアウトレットを設ける場合には、前記所望のレイアウトに合わせて什器を構成する側板にアウトレットを形成しなければならず、什器に対する所望の位置にアウトレットを配設する作業が煩雑であった。
【０００６】
本発明は、このような問題点に着目してなされたもので、所望の位置にアウトレットを配設する作業が簡便な什器を提供することを目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００７】
前記課題を解決するために、本発明の什器は、
床面から立設した枠体の内部空間に配線や配管が配置されており、
前記枠体は、横方向に延びる横杆部材を備え、前記横杆部材によって該枠体の外面領域が上下に分割されており、前記枠体の外面領域における上段には、前記配線や配管に接続可能なアウトレットを少なくとも１つ有する機能パネルが配設されており、
前記機能パネルは、横方向に分割され、同一の上下幅を有する複数の分割体を備えており、各前記分割体は、並び替えが可能となっていることを特徴としている。
この特徴によれば、横杆部材により分割された枠体の外面領域の上段において、アウトレットを有する分割体を所望のレイアウトに合わせるように複数の分割体を並び替えることで、機能パネルの所望の位置にアウトレットを配設することができるため、所望の位置にアウトレットを配設する作業が簡便である。
【０００８】
前記枠体は、前記横杆部材を上下に一対備えており、一対の前記横杆部材間に複数の前記分割体が取付けられていることを特徴としている。
この特徴によれば、複数の分割体を横杆部材間に安定して取り付けることができる。
【０００９】
複数の前記分割体は、一対の前記横杆部材にそれぞれ係止して着脱可能に取付けられていることを特徴としている。
この特徴によれば、分割体の横杆部材間への着脱が容易となっているため、アウトレットのレイアウトを変更し易い。
【００１０】
前記機能パネルは、複数の前記分割体のうち２つ以上が同一の横幅を有していることを特徴としている。
この特徴によれば、機能パネルが同一の大きさの各分割体を備えているため、機能パネルにおける分割体同士の部分的な並び替えが行い易い。
【００１１】
前記枠体の内部空間の上方には、前記配線や前記配管におけるガス管が配設され、前記枠体の内部空間の下方には、前記配管における液管が配設されていることを特徴としている。
この特徴によれば、液管を下方側に配設し、電気配線やガス管を上方に配設したため、前記電気配線やガス管が、液管の結露や液漏れによる影響を受け難い。
【００１２】
床面には、前記枠体の長手方向に沿って延びるベース部材が複数敷設されており、少なくとも隣接する２つの前記ベース部材は、該長手方向に所定間隔して配設されており、隣接する２つの前記ベース部材には、前記枠体の外面領域における下段に配設される構造部

材が渡るように載置されていることを特徴としている。
この特徴によれば、隣接するベース部材と構造部材との間を利用して内部の配管や配線を外部に取り回すことができる。
【図面の簡単な説明】
【００１３】
【図１】実施例における什器の構造を示す斜視図である。
【図２】什器の構造を示す分解斜視図である。
【図３】什器の構造を示す側断面図である。
【図４】図３における囲み部の要部拡大図である。
【図５】（ａ）は、実施例における什器の機能パネルのみを示す部分正面図であり、（ｂ）は、（ａ）の機能パネルにおけるレイアウトを変更した状態を示す部分正面図である。
【図６】機能パネルの変形例を示す部分正面図である。
【発明を実施するための形態】
【００１４】
本発明に係る什器を実施するための形態を実施例に基づいて以下に説明する。
【実施例】
【００１５】
実施例に係る什器につき、図１から図６を参照して説明する。以下、図３及び図４の画面左側を什器の正面側（前方側）とし、画面左側を什器の背面側（後方側）として説明する。また、什器の正面側から見て左右を該什器の左右として説明する。
【００１６】
図１に示されるように、什器１は、例えば、病院やクリニック等に設けられる病室や治療ゾーンに配置されるものであり、電源用の配線Ｐ１，Ｐ１，…や、治療に用いる数種類の医療ガス用の配管Ｐ２，Ｐ２，…等が内部に通されているとともに、後述する各種アウトレット１０，１０，…を介して外部から配線Ｐ１，Ｐ１，…や配管Ｐ２，Ｐ２，…に接続して、患者が治療を受けられるようになっている。本実施例では、什器１の背面側の側板を、部屋内の窓を有する壁面に沿って配置し、左右両側面側の側板を部屋の出隅部によって塞がれるようにして設置された態様について説明する。
【００１７】
図１に示されるように、什器１は、横方向に延びる箱型形状であり、該什器１の骨子となる枠体２と、什器１の上面側の側板であり枠体２上に取付けられる上壁部３と、枠体２の正面側の外面領域（什器１の前面側の側板）を構成する側壁部４と、を備えている。また、上壁部３と側壁部４とは、後述する支柱２ａ，２ａ，…の位置ごとに左右方向（長手方向）に複数分割されている（本実施例では５つ）。
【００１８】
次に、枠体２の構造を説明する。尚、図２では、わかりやすく説明するために、図１の画面右側から３つの分割部（上壁部３と側壁部４とが左右方向に分割されたもの）のみを図示している。さらに尚、図２には、配線Ｐ１，Ｐ１，…及び配管Ｐ２，Ｐ２，…の構成を省略している。
【００１９】
図２に示されるように、枠体２は、床面から垂直に立設した支柱２ａ，２ａ，…と、支柱２ａ，２ａ，…同士を横方向に連結する上下一対の横杆部材２ｂ，２ｂと、支柱２ａ，２ａ，…を部屋の壁面と連結する奥行杆部材２ｃ，２ｃ，…と、から構成されている。支柱２ａ，２ａ，…は、床面側に設けられたアジャスタ２０，２０，…（図３参照）により床面の起伏に合わせて高さ調整が可能となっている。尚、本実施例において枠体２を構成する各部材は、連結部を互いに溶接されることにより連結されているが、ボルト・ナット等により互いが連結されるものであってもよい。
【００２０】
この枠体２は、下方側の横杆部材２ｂにより、枠体２の前記外面領域が上下に分割されており、枠体２の外面領域における上段には、後述する機能パネル６が取付けられている

。

【００２１】

また、上壁部３は、前記分割部ごとに設けられる天板５，５，…から構成されており、この上壁部３では、各種アウトレット１０，１０，…に接続された医療器具や医療機材等を載置できるようになっている。また、天板５，５，…は、枠体２に対してボルト等により着脱可能となっており、天板５，５，…を枠体２から取外すことにより、配線Ｐ１，Ｐ１，…及び配管Ｐ２，Ｐ２，…にアクセスできるため、配線Ｐ１，Ｐ１，…及び配管Ｐ２，Ｐ２，…のメンテナンスが簡便である。

【００２２】

次いで、側壁部４について説明する。図１及び図２に示されるように、側壁部４は、前述した枠体２の外面領域における上段に設けられる機能パネル６と、枠体２の外面領域における下段に配設される構造体７と、を備えている。尚、機能パネル６が配置される高さは、医療従事者等が立った姿勢のままで各医療機器の操作を行いやすい所定の高さに設定されており、機能パネル６に設けられるアウトレット１０，１０、…横方向の位置や配置は、医療従事者等が操作を行いやすい所望の位置や配置の組み合わせとなるように設定されている。

【００２３】

機能パネル６は、前記分割部と同様に、支柱２ａ，２ａ，…の位置ごとに左右方向に複数分割されている。詳しくは、機能パネル６は、アウトレット１０を備えた分割パネル材６ａ，６ｂ，６ｃ（分割体）と、アウトレット１０を備えていない分割パネル材６ｄ，６ｄ（分割体）と、から成る。また、機能パネル６は、上下幅が統一されているため、分割パネル材６ａ，６ｂ，６ｃ及び分割パネル材６ｄ，６ｄは、上下幅が同一となっている。また、分割パネル材６ａを除く分割パネル材６ｂ，６ｃ及び分割パネル材６ｄ，６ｄは、横幅が同一となっており、すなわち同一の大きさとなっている。また、分割パネル材６ａは、分割パネル材６ｂ～６ｄの横幅に比べ、２倍の横幅となっている。

【００２４】

図４に示されるように、これら分割パネル材６ａ～６ｄは、一対の横杆部材２ｂ，２ｂ間に取付けられている。詳しくは、横杆部材２ｂ，２ｂの前面側には、横杆部材２ｂ，２ｂの長手方向に沿って延びるレール部材２１，２１がそれぞれ設けられている。このレール部材２１は、横杆部材２ｂの上面に配設されビス等により固定される取付片２１ａと、取付片２１ａの前端に設けられる断面コ字状のレール部２１ｂと、取付片２１ａから上方に延びる突起片２１ｃと、から成る。

【００２５】

レール部２１ｂには、医療機器等の備品を係止させることで取付けられるようになっているとともに、左右方向に沿って移動させることができるようになっている。つまり、レール部２１ｂにおいて、任意のアウトレット１０と近い位置に前記備品を配設できるため、什器１の外側に露出する配線や配管を短くできる。

【００２６】

また、各分割パネル材６ａ～６ｄの下端部には、下向き鉤状の係止片１１，１１，…がそれぞれ設けられており、この係止片１１，１１，…がレール部材２１の突起片２１ｃに係止されるようになっている。また、横杆部材２ｂ，２ｂの下面には、左右方向に所定間隔離間して複数のクリップ１３，１３，…が取付けられており、後述する棚部材７１の上端部が挟まれるようになっている。尚、各分割パネル材６ａ～６ｄの上端部は、棚部材７１の上端部と同様に、上方側の横杆部材２ｂのクリップ１３，１３，…に挟まれるようになっている。

【００２７】

このように、分割パネル材６ａ～６ｄは、横杆部材２ｂ，２ｂ間に取付けられるため、分割パネル材６ａ～６ｄの上下端部が横杆部材２ｂ，２ｂに当接して安定して取付けられる。さらに、分割パネル材６ａ～６ｄは、横杆部材２ｂ，２ｂ間に係止されて着脱可能に取付けられているため、各分割パネル材６ａ～６ｄの横杆部材２ｂ，２ｂ間への着脱が容

易となっている。
【００２８】
　また、図２に示されるように、横杆部材２ｂ，２ｂ間には、支柱２ａ，２ａ，…が配設され、横杆部材２ｂ，２ｂ及び支柱２ａ，２ａ，…により矩形状の小枠が複数形成されており、その小枠に合わせて各分割パネル材６ａ～６ｄを設置できるため、各分割パネル材６ａ～６ｄを取付ける作業が容易になるとともに、分割パネル材６ａ～６ｄの外縁が前記小枠に当接され安定して取付けられる。
【００２９】
　また、各分割パネル材６ａ～６ｄは、機能パネル６の横幅αの範囲内で並び替えが可能となっている。例えば、図５に示されるように、分割パネル材６ｂと分割パネル材６ｃとの位置を並び替えることができるようになっている。より詳しくは、図５（ａ）のように、画面右側から分割パネル材６ｄ，６ｃ，６ａ，６ｂ，６ｄの順に並んだ状態の機能パネル６から、該機能パネル６の横幅αの長さを変えずに、図５（ａ）のように、分割パネル材６ｄ，６ｂ，６ａ，６ｃ，６ｄの順に並んだ状態の機能パネル６’に変更することができるようになっている。
【００３０】
　すなわち、什器１の新設時において、各種アウトレット１０，１０，…が什器１の左右方向の所望の位置に配置されるように、各分割パネル材６ａ～６ｄの並び替えを行うことにより、什器１の左右方向の所望の位置に、容易にアウトレット１０，１０，…をレイアウトできるため、什器１の施工にかかる時間を短縮できる。さらに、既設の什器１の改修時においても、各分割パネル材６ａ～６ｄの並び替えを行うことで、従来のように１枚の側板ごと変更しなくても所望のアウトレット１０，１０，…のレイアウトパターンに容易に変更することができる。
【００３１】
　また、前述のように、各分割パネル材６ａ～６ｄの横杆部材２ｂ，２ｂ間への着脱が容易となっているため、所望のアウトレット１０，１０，…のレイアウトパターンを設置する作業が極めて容易である。
【００３２】
　また、各分割パネル材６ａ～６ｄのうち、分割パネル材６ａ以外は、同一の大きさとなっているため、図５に示したように、分割パネル材６ｂ及び分割パネル材６ｃのみの位置を並べ替えたい場合には、分割パネル材６ａ，６ｄ，６ｄの位置を動かさずに、分割パネル材６ｂ及び分割パネル材６ｃのみを部分的に並び替えることができるようになっている。
【００３３】
　また、前述のように、分割パネル材６ａは、分割パネル材６ｂ～６ｄの横幅に比べ、２倍の横幅となっているため、分割パネル材６ａの位置を変更しても、横杆部材２ｂ，２ｂ及び支柱２ａ，２ａ，…により形成される前記矩形状の小枠ごとに、各分割パネル材６ｂ～６ｄを収めることができるようになっている。
【００３４】
　また、機能パネル６は、分割パネル材６ａ～６ｄに分割されているので、例えば、分割パネル材６ａ～６ｄのうち１つだけを、別の新たな分割パネル材に交換することもできる。そのため、例えば、破損した分割パネル材だけ交換したい場合や、所定の分割パネル材におけるアウトレット１０の位置調整をするために加工を施したい場合等に有用である。
【００３５】
　また、機能パネル６は、枠体２の外面領域の上段に配設されていることから、後述のように、配線Ｐ１，Ｐ１，…及び配管Ｐ２，Ｐ２，…が、枠体２の上段の内部空間に集中して配設されているため、枠体２の下段の内部空間を広く利用することができるようになっている。
【００３６】
　尚、複数種類の分割パネル材を用意しておき、左右方向の全長が横幅αとなるように、

該複数種類の分割パネル材を選択的に組み合わせて、枠体２の上段に取付けることで、所望の機能パネルを形成するようにしてもよい。これにより、様々なアウトレット１０，１０，…のレイアウトパターンを形成できるため、什器の設計自由度が向上する。

【００３７】

次いで、前述した構造体７について説明する。構造体７は、枠体２の外面領域の下段において支柱２ａ，２ａ，…間に配設される棚部材７１，７１（構造部材）、及び閉塞パネル７２，７２，７２（構造部材）から成る。棚部材７１，７１は、枠体２の下段における内部空間に向けて収容部７１ａ，７１ａを備えている。また、枠体２の下段における棚部材７１，７１以外の内部空間には、例えば図示しない給水装置やガス圧調整装置等の機材を収納できるようになっており、閉塞パネル７２，７２，７２により閉塞して前記機材が外部に露見しないようにできる。

【００３８】

また、図１及び図２に示されるように、支柱２ａ，２ａ，…の下端部には、枠体２の長手方向に延び、且つ該長手方向に所定間隔して敷設される断面略上向きコ字状の巾木部材８，８’（ベース部材）が設けられている。巾木部材８，８’の前端片８ａ，８ａ’には、棚部材７１，７１の底板７１ｃ，７１ｃの前端側が載置されているとともに（図３参照）、閉塞パネル７２，７２，７２の下端が載置されている。また、離間する巾木部材８，８’には、閉塞パネル７２が左右方向に渡って載置されている。そのため、什器１の下端の一部には、巾木部材８，８’の間と閉塞パネル７２とで形成される開口１４が形成されている。

【００３９】

図３に示されるように、枠体２の上段の内部空間には、その前方側に配線Ｐ１，Ｐ１，…及び配管Ｐ２，Ｐ２，…が集中して配置されている。これにより、配線Ｐ１，Ｐ１，…及び配管Ｐ２，Ｐ２，…から各種アウトレット１０，１０，…に延びる部分を短くすることができるとともに、天板５，５，…側からメンテナンスを行い易い。

【００４０】

また、枠体２の下段の内部空間には、その後方側（棚部材７１，７１を構成する背板７１ｂ，７１ｂと部屋の壁面との間）には、排液が流通する排液管Ｐ３が配置されている。

【００４１】

このように、電気用の配線Ｐ１，Ｐ１，…及び医療ガス用の配管Ｐ２，Ｐ２，…（上方）と、液体用の排液管Ｐ３（下方）と、が上下対角の位置に設けられているため、排液管Ｐ３に結露や液漏れが生じても、配線Ｐ１，Ｐ１，…及び配管Ｐ２，Ｐ２，…が影響を受けることがない。

【００４２】

また、什器１の下端には、巾木部材８，８’の間と閉塞パネル７２とで開口１４が形成されており、該開口１４を介して外部から排液管Ｐ３に接続管Ｐ４を接続することができるようになっているため、巾木部材８，８’や閉塞パネル７２等に接続管Ｐ４を挿通させるための孔等を形成する必要が無い。

【００４３】

また、棚部材７１，７１は、背板７１ｂ，７１ｂ及び底板７１ｃ，７１ｃが取外し可能となっている。これにより、排液管Ｐ３のメンテナンスを容易に行うことができるようになっている。尚、排液管Ｐ３のメンテナンスを行う際には、閉塞パネル７２，７２，７２を取外して行うようになっていてもよい。

【００４４】

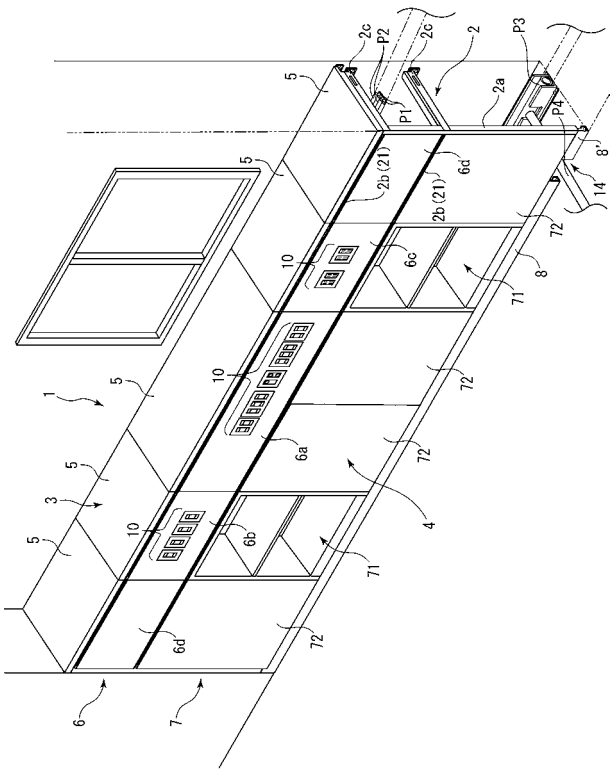
尚、前記実施例では、機能パネル６が、横幅がほぼ同一の大きさの分割パネル材６ｂ～６ｄにより構成される態様について説明したが、例えば、図６（ａ）に示されるように、全て異なる横幅の分割パネル材６０ａ，６０ｂ，６０ｃ，６０ｄ，６０ｅにより機能パネル６０が構成されていてもよい。この場合であっても、横幅αの長さを変えることなく、分割パネル材６０ａ～６０ｅを並び替えて、アウトレット１０，１０，…のレイアウトパターンの異なる機能パネル６０’に変更できる。

【００４５】
以上、本発明の実施例を図面により説明してきたが、具体的な構成はこれら実施例に限られるものではなく、本発明の要旨を逸脱しない範囲における変更や追加があっても本発明に含まれる。
【００４６】
例えば、前記実施例では、什器１が壁際に設置された態様について説明したが、センター設置型のように、前記実施例の什器１に背板を取付けて壁面から離れた位置に独立して設置されていてもよい。
【００４７】
また、機能パネル６は、枠体２の外面領域の上段において、左右方向の全長に渡って設けられる態様について説明したが、機能パネルは、枠体２の外面領域の上段において、左右方向に連続する一部の領域に設けられるものであってもよい。
【００４８】
また、前記実施例では、枠体２の外面領域が上下２段に分割された態様について説明したが、これに限られず、枠体２の外面領域は、上下３段以上に分割されていてもよい。この場合、機能パネル６は、枠体２の外面領域における一番下段よりも上方の段に設けられていればいずれの段に設けられていてもよい。
【００４９】
また、前記実施例において、機能パネル６の中央部に配置された分割パネル材６ａは、他の分割パネル材６ｂ～６ｄに対して２倍の横幅を有していたが、分割パネル材は、全て同じ幅のものから構成されてもよい。
【００５０】
また、分割パネル材は、横杆部材２ｂ，２ｂに係止されて枠体２に対して着脱可能となっていることに限られず、例えば、ボルトやビス等の固定手段により枠体２に着脱可能となっていてもよい。
【００５１】
また、前記実施例の什器１は、新設時または改修時においてアウトレット１０，１０，…のレイアウトパターンを変更することを想定して、分割パネル材６ａ～６ｄが枠体２に対して着脱可能となっていたが、これに限られず、各分割パネル材が枠体２に溶接などで固定されていてもよい。この場合であっても、新設時におけるアウトレット１０，１０，…のレイアウトが簡便である。
【符号の説明】
【００５２】

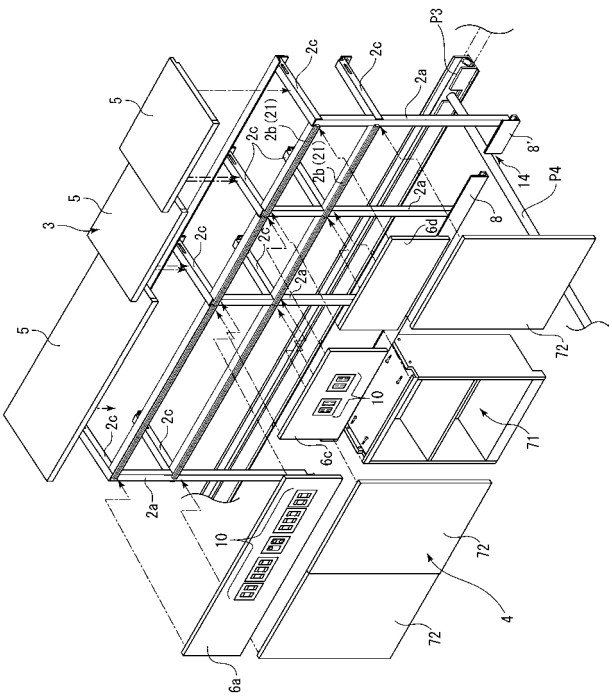
１	什器
２	枠体
２ａ	支柱
２ｂ	横杆部材
４	側壁部
５	天板
６，６’	機能パネル
６ａ～６ｄ	分割パネル材（分割体）
８，８’	巾木部材（ベース部材）
１０	アウトレット
１１	係止片
１４	開口
２１	レール部材
６０，６０’	機能パネル
６０ａ～６０ｅ	分割パネル材（分割体）
７１	棚部材（構造部材）
７２	閉塞パネル（構造部材）

Ｐ１	電気用配線
Ｐ２	医療ガス用配管
Ｐ３	排液管
Ｐ４	接続管
α	機能パネルの横幅

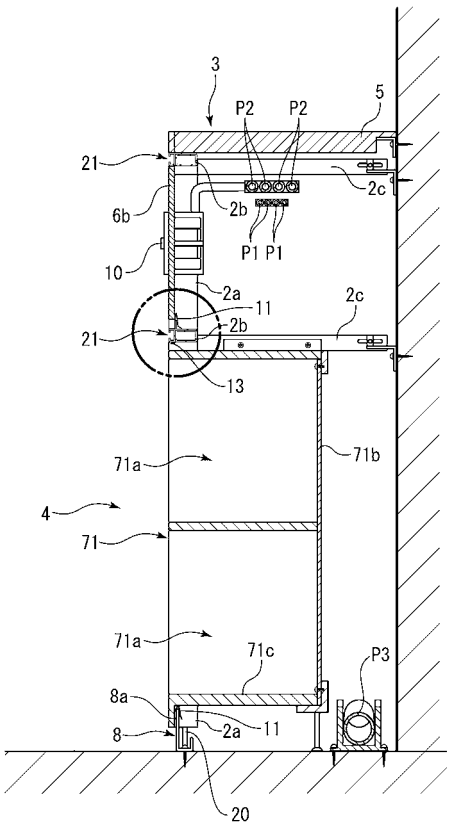
【図１】



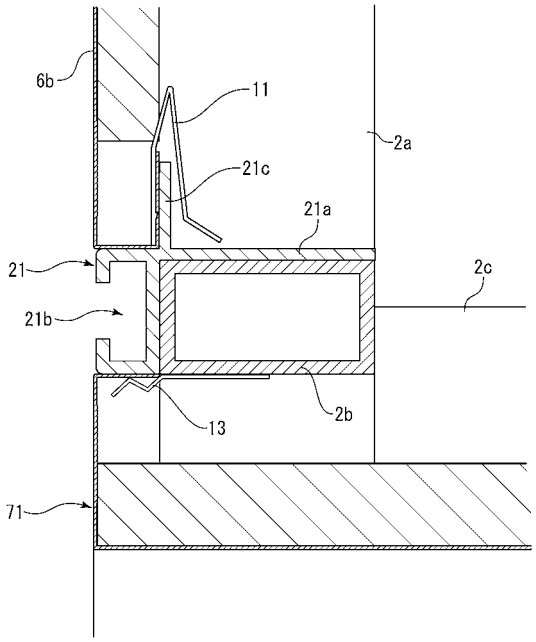
【図２】



【図３】

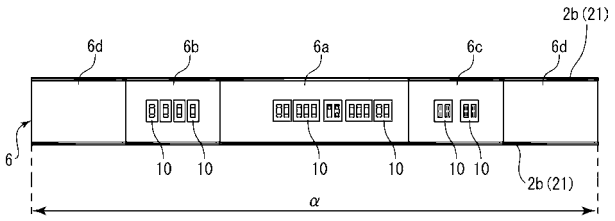


【図４】

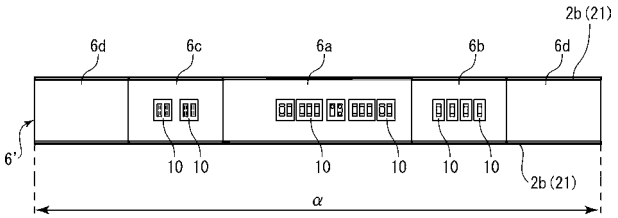


【図５】

（ａ）

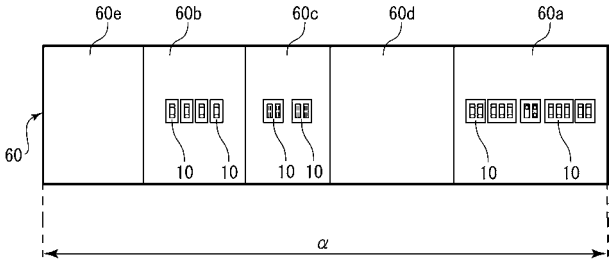


（ｂ）

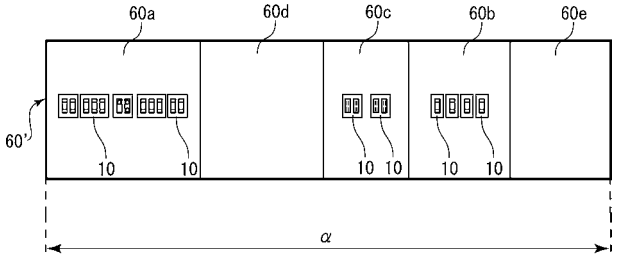


【図６】

（ａ）



（ｂ）



フロントページの続き

(74)代理人　100123216
弁理士　高木　祐一
(72)発明者　中村　健治
神奈川県横浜市西区北幸二丁目７番１８号　株式会社岡村製作所内

Ｆターム(参考) 3B053 NN01
3B060 BA01 BB01 BC02 BC03 BD02 BE01